

戦争も核もない 平和な社会を武蔵野から

新しい年を迎えた。今年こそ憲法を生かし、基本的人権が尊重される平和な社会を実現することを願い、全国首長九条の会共同代表であり、憲法を基盤に市民参加を大切にする市政に取り組んでいる東京都武蔵野市長松下玲子さんにお話を聞きました。

政治家をめざした
きっかけ

私は名古屋生まれです
が、父の転勤で、三歳の
時には東京に、小学校は
横浜、中学校二年生の
時、北海道古小牧市に引
っ越し、大学進学で上京
しました。大学卒業後、
民間企業に入り、一般
職として採用されました。
途中で総合職に移り、大阪支
社に転勤になりました。
そこで非正規パート職員の
人事・経理の仕事をし
ていたとき、「百三万円・百三十
万円の壁」と言われる配偶者控除等の所得制限が
原因で行われた不正を見
つけ、眞面目な社員がなぜそんなことをするのか
という疑問から、「罪を
憎んで人を憎まず。これ
がなかつたこと」。また深

新春訪問



東京都武蔵野市長
松下玲子さん

は日本の社会保障制度の問題だと気づきました。その後独学で勉強を始め、仕事をやめて大学院で社会政策を学びました。卒業後、松下政経塾に入り、社会政策や制度を政治の力で変えていくことが必要だと思い、二〇〇五年に武蔵野市から都議選に立候補して当選

育園待機児問題なども身近なこととして実感し、保育の質、環境、食育の問題など当事者となることで学んできました。政治の仕事は相手の立場、当事者の立場に立つて考えることが大事だと思っています。それらを政策に反映したいと、都議時代も市長になってからも取り組んできました。

平和をしつかり市政に位置付けて

武蔵野市には戦時中、ゼロ戦のエンジンを作っていた中島飛行機武蔵製作所があつたため、合計

夜まで議会が延びるのも頑張るのでなく、男性の働き方を変えないと解決しない問題だと痛感しています。

女性管理職はまだ少ない状況ですが、市議会の女性比率は高い方だと思います。

も頑張るのでなく、男性

の働き方を変えないと解

決しない問題だと痛感

ています。

市長になって、広島や長崎を訪れ、両市長とも話をするなかで、原爆被害にあった当事者と同じにはなれませんが、日本に起きた問題として被爆地の人たちに寄り添い、二度と原爆が投下されないよう伝えていきたいと改めて思いました。原爆にも反対で、脱原発長崎市長會前には、長崎の平和記念像を作った、武蔵野市名誉市民である彫刻家北村西望氏のモニュメントがあります。

戦争も核もない平和な世界を武蔵野から実現したいという強い思いがあります。長期計画には、平和・文化・市民生活という項目を設け、自治条例にも平和の項目を入れました。

平和・憲法手帳の作成・配布を行い、子ども向けのものも作っています。

戦争も核もない平和な世界を武蔵野から実現したいという強い思いがあります。長期計画には、平和・文化・市民生活という項目を設け、自治条例にも平和の項目を入れました。平和・憲法手帳の作成・配布を行い、子ども向けのものも作っています。

野市は、半世紀にわたり、計画づくりなど市民参加、市民自治を育んでいます。武蔵野市は、半世紀にわたり、計画づくりなど市民

参加、市民自治を育んでいます。武蔵野市では、半世紀にわたり、計画づくりなど市民

参加、市民自治を育んでいます。武蔵野市では、半世